

だっこするよ

2023年12月



社会福祉法人茂原高師保育園
北区立赤羽台保育園
園長 奥戸 昌子

皆が幸せになる保育園を目指して

公園への道のり、小さな手が私の手をぎゅっと握ってくれて、出発！私も安心して歩きます。落ち葉をサクサク踏んで歩くと満面の笑み…いちごさんとの散歩は至福の時間です。

さて、4、5歳さんの焼き芋パーティーには、沢山の保護者ボランティアの皆さんにご参加いただき誠に有難うございました。皆さんを子ども理解ワークショップの参加者とさせて頂き、子どもが主役、子どもの仕事に手や口を出さないように、本気で楽しむ大人の姿を見せよう…など本気で走って本気で見守って下さって有難うございました。素晴らしかったです。

「火」を通して、子ども達はまた一つ大きな成長をしました。火起こし、枝の組木、薪を入れ、薪が燃え、熾きになったら、芋を入れて焼く…そのプロセスをそれぞれのグループで協力して自主的に行いました。あの日の焼き芋の味、大人達に囲まれ見守ってもらった記憶は深く心に刻まれることでしょう。

「子どもは生まれながらに有能で、自分の学びたいことを知っている」テファリキ（ニュージーランドの幼児教育カリキュラムの言葉です）幼児教育の主役は子ども達、子どもたちの主体性と周りの保護者や保育者、社会全てテファリキ＝織物のように織り込まれながら子どもの育ちを見守るという意味があるそうです。私たちも、子どもを真ん中にして、保護者と職員、地

域が、一つのチーム赤羽台になって、いえいえ、地球のチーム子育て世代で、子ども達の健やかに生きる権利を守っていきましょう。

先日、全国保育研究大会大分大会へ参加しました。「すべての子どもの権利として育ちを保障していく社会の実現」を目指して、開会式では、児童憲章を唱和し、こども家庭庁より、保育をめぐる国の動向と課題、子ども未来戦略方針、また、働き方改革について説明がありました。

神戸大学大学院の北野幸子先生のご講演、期待を超えてくるエネルギーで早口で、「子どもの最善の利益を守るためのチームマネジメント」「子どもの人権」について熱く語られました。環境問題SDGsも勿論大切だが、この国の持続可能な発展のためには、次世代育成こそが存続の鍵である。少子化が止まらない。子どもを産み育てたくなる次世代（現在の中高校生）への在り方が大事であり、こども家庭庁も発足した。乳幼児期の保育の質が、国の発展を左右する。子どもの権利条約に立ち返り、一人一人が自己発揮出来る力を持つ。全ての子ども達に質の高い幼児教育・保育をしなければならない。個々の子どもの最善の利益を守る個別最適化教育＝一人一人の子どもを育む保育者の工夫が必要。指示、命令、禁止、制限より、疑問、提案、誘いを。結果よりもプロセスを重視。生活経験、事前体験、五感を活用したリアルな体験＝幼児期にこそリアリティを。複数の感覚器を同時に使うことの大切さ。人と関わりながら、社会性を学ぶことの大切さ。協同的学びでは、一人一人の尊重があつての、共主体、Co-Agency（協同エージェンシー）互惠性のある連携協働が大切であると力強く語られました。

人口減少、経済低迷、紛争など、不透明な時代、互いにやり取りし、支え合う連携協働が増々必要であると話されました。そして、保育者は、子どもの人権への意識の極めて高い専門職であることへの自負と誇りをもって欲しいと結びました。胸が熱くなりました。

私は、異年齢保育に移行し、本当に良かったと日々感じております。それをもっと豊かに、もっと子どもの声を聞き、園に関わる誰もが幸福になるそんな園を目指したいと強く思いました。写真は、子ども理解ワークショップの皆さんの輪